

アジアNo.1のリサイクル企業を目 2030年に向けた長期経営ビジョン

海外メジャーと互角に戦える規模と 内容を備えるため2030年度に向けた 長期プロジェクトをスタートさせました

当社は、設立から60年にわたって、工場廃液のリサイクルをコア事業に、周辺の環境関連事業にも進出し、国内有数の資源リサイクル企業に成長してきました。

近年、「環境」に対する社会的意識は年々高まっており、同時に当社グループへの期待も強くなっています。2015年には国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、具体的な行動指針であるSDGs(持続可能な開発目標)が示されました。当社グループも、その精神を理解したうえで社会的役割を担い、かつ持続的成長を遂げていくため、社は「環境を通じ社会に貢献する環境創造企業」のもと、2030年に向けた長期経営ビジョン「VISION2030」を策定しました。

今後、国内市場が縮小する一方、アジアを中心とした海外市場における競争の激化が予想されます。そこで、「VISION2030」では、既存事業領域、新規事業領域、人材開発の3つの領域で基本戦略を立て、2030年に現状の3倍の売上高・営業利益を達成し、アジアNo.1のリサイクル企業を目指しています。

▼ 数値目標

	2018年2月期実績	2030年度目標
連結売上高	491億円	1,500億円
連結営業利益	87億円	250億円
ROE	9.9%	15.0%

▼ 基本戦略

既存事業領域	国内エリア戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存事業所間連携による希薄なエリアの濃密化 ● 新規事業拠点開発により新規エリアへの進出
	海外エリア戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア市場への進出を念頭に市場調査を開始
	技術・設備開発	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル率の上昇 ● 新規技術・設備導入による取扱品目の拡大
	グループ戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材交流を含めた連携強化によるシナジーの拡大
新規事業領域	M&A戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 「環境」「リサイクル」をキーワードとするM&A
	アライアンス戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 異業種も含めたアライアンスの推進
人材開発	職場環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 働き甲斐も成長も望める職場環境 ● ジェンダーフリーな職場環境
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ企業間の人材交流の活発化 ● 教育制度の拡充 ● 新規プロジェクト社内公募制の実施



代表取締役社長

柱 秀貴

指し を策定しました

長期経営ビジョンに基づき今回の報告書から 重点課題に「人」項目を増やしています

「VISION2030」の基本戦略の一つに「人材開発」を掲げているように、当社が持続的成長を続けていくためには「人」への取り組みが重要です。そのため、CSR報告書2018から、



重要課題に「人」の項目を掲載しています。設立100周年に向け、全社員が仕事も生活も充実させ、自分と会社の将来をしっかりとイメージできるようにしていきたいと考えています。

5つの重点課題を中心に——2017年度の総括

2017年度は、景気が回復し、各企業の生産が好調に推移したことで、過去最高益を達成することができました。そうしたなか、当社は従来からの「環境」「コンプライアンス」「安全」「地域・社会」に「人」を加えた5つの重点課題に取り組みました。

「環境」では、セメント原料や再生燃料の原材料入荷量の大幅な増加にともない、原料系リサイクルおよび燃料系リサイクル量が大幅に増加しました。しかし、埋立汚泥の出荷量が増加したた

め、リサイクル率は82.6%と前年度比4.9ポイント悪化しました。

「コンプライアンス」では、各事業所やグループ会社で勉強会を実施し、社員のコンプライアンス意識を高めています。

「安全」では、「労災事故ゼロ」と「環境に影響を及ぼす事故ゼロ」を重点目標として取り組みましたが達成できず、現場の作業マニュアルを全面改訂し、それに基づいた教育を実施しました。あわせて、再生燃料の車両充填所に安全帯を引っ掛ける転落防止設備を整備しました。重大事故の発生やコンプライアンス違反は当社の最大のリスクであるため、今後も安全第一で取り組んでいきます。

「地域・社会」では、2016年4月の熊本地震で発生した災害廃棄物の中間処理を地元業者と連携して2018年2月まで実施し、環境大臣から感謝状を贈呈されました。

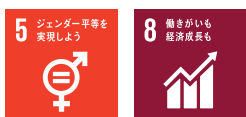
「人」では、ダイバーシティ(多様性)のある組織実現の一環として、女性営業職を増やすべく取り組みを進めています。

2017年度は、廃棄物処理法の改正による水銀廃棄物の規制が強化され、今後も電子 manifests の義務化などさらに廃棄物に関する法規制が強化されていくことが予想されます。こうした流れに対応するとともに、2018年度も引き続き、5つの重点課題に取り組み、お客様に信頼される企業グループを目指し続けます。

ダイセキの「5つの重点課題」

コンプライアンス

自治体から許可を受けて事業を営む当社にとっては最重要課題であり、従業員の意識を高めるための継続的な教育・研修に努めています。



地域・社会

周辺地域の住民の皆様の理解がなくては事業所の運営はできません。交流や対話に努め、地域への貢献活動に取り組んでいます。



人

「リサイクル」に関わる企業としての責任を果たしながら、社員一人ひとりの働きがい、生きがいを追求し、ワークライフバランスを推進しています。

環境

「限られた資源を活かして使う」の理念に基づきリサイクル率向上に努めるとともに、臭気などの悪影響を防ぎ、環境負荷の削減に取り組んでいます。



安全

危険性・有害性の高い化学物質が含まれている廃棄物の取り扱いには細心の注意を払い、漏洩事故、反応事故の撲滅を目指しています。